

**文学研究科都市文化研究センター**  
**米国イリノイ大学交流事業**  
**メディカル=ヒューマニティーズセッション**  
**派遣若手研究者募集のお知らせ**

文学研究科・都市文化研究センターでは、2010年代より「イリノイ大学・大阪公立大学交流事業」の一環として、交流シンポジウム旅行を企画し、若手研究者および大学院生に米国会場での研究報告と都市フィールドワークの機会を提供して来ました。

今年度の交流シンポジウムは、University of Illinois, Urbana-Champaign (UIUC) 会場において、2024年3月5日に予定されており、両大学の研究者が現在進行中の研究成果を報告しあい、両校の交流に益する関係を構築するために行われます。

今年度のテーマは Medical Humanities とし、本学に在籍する大学院生1~2名程度による英語による研究報告(20~30分)を実施すべく、発表者を公募します。

現地では、「医」に関わる文化研究に関心を持つ、東アジア学を中心とした研究者の参加が見込まれます。本学からは、文学研究科より1名を派遣するのに加え、人文学・社会科学の諸研究科や、医学、生活科学を含む、生活の場をテーマとする本学の若手研究者を募ることにしました。

採択された派遣者には、文学研究科が英語による報告作成の支援と旅費の補助を行うほか、現地では教員が帯同する形で、シンポジウム参加および都市フィールドワークに参加(1週間)していただきます。

ご関心のある方は、**12月25日(月) 17:00までに**下記の応募書類をご用意いただき、添付のうえ、参加希望・応募のメールをお送りください。

- ①200Words程度の英文発表要旨とその日本語版
- ②履歴書(様式は任意)
- ③研究業績書(様式は任意)

\*応募メールには、「イリノイシンポジウム参加希望」のタイトルを付し、gr-lit-ucrc★omu.ac.jp[★を@に変えてください]まで送付のこと。

\*応募者多数の場合は、都市文化研究センター運営委員会が選抜を行います。

本件に関するご質問は、担当教員(草生久嗣 [kusabu@omu.ac.jp](mailto:kusabu@omu.ac.jp) 都市文化研究センター運営委員)あてにお送りください。

文学研究科都市文化研究センター (UCRC)

**文学研究科都市文化研究センター(UCRC)**  
**米国イリノイ大学交流事業**  
**メディカル=ヒューマニティーズセッション**  
**実施要項**

**1. 日程 (調整中)**

- ・旅行日程 6泊7日
- ・2024年3月3～10日 (予備日程 3月7～14日)
- ・シンポジウム  
上期間中の1日 (午前・午後)。研究報告1人20分、議論30分 (英語による)
- ・交流会議 (ビジネスミーティング)  
上期間中の半日 (専任教員のみ)
- ・大学訪問・都市フィールドワーク  
シンポジウムの前もしくは後に、シカゴ市およびシャンペーン市内における都市文化史に関わる学術巡見を予定しています。

**2. 参加者の構成**

- ・被派遣者3名以上 (引率教員1名、大学院生2名)  
例年、教員1～2名と若手研究者1～2名、大学院生1～2名で実施しています。

**3. シンポジウムと発表形式**

- ・シンポジウム・テーマ (昨年度に両者間で設定)  
Medical Humanities  
医療にとどまらない社会史や生活誌研究も含むテーマとして、生活圏・社会における「医」にまつわる側面がある話題であれば問題ありません。医学的な専門報告であっても、多分野の聴衆が予定されるシンポジウムにむけた編成をします。
- ・発表形式 パワポスライドを用い、英語ベースで約20分の発表。約30分の質疑。
- \*本シンポジウムは、提携主宰機関 (CEAPS/Global Institute-UIUC) における東アジア研究者を中心とする企画であるため、参加者は日本語に堪能・日本学に関心のある人が多いです。専門をはずれた質疑があっても、現場ではボランティアの同時通訳が機能して、心配はありません。

**4. 経費等**

- ・派遣出張に関わる渡航費 (航空券・ホテル代) は学長部局重点予算に基づき文学研究科が負担します。
- \*余儀ない事情がある場合は派遣出張への部分参加を認める場合があります。
- ・英語報告や旅行の準備、引率は、本プログラムについて経験豊かな草生久嗣文学研究科教授 (米国シカゴ大学 PhD) が対応します。Email: kusabu@omu. ac. jp

**5. スケジュール (予定)**

- ・12月～2月下旬に、3～4回の準備のためのミーティング (旅行手続き含む)
- ・1月上旬までに航空機・宿泊先などを確保
- ・1月までにパスポート、入国手続きに関する確認
- ・1月下旬までに英語200語程度の発表要旨の最終版を提出
- ・随時、発表準備の個別指導や英文校閲サービスを実施

以上